

### 1-3 落花生と南京豆やピーナッツとの違いは

- ①違いはなく区別の必要はない
- ②同じ種類だが落花生は莢入りの豆、南京豆やピーナッツは莢からとりだした豆とはっきり区別されている
- ③よく似ているが、別の種である

②を正解のように言う人もいますが、正解は①だと思います。例でご説明しましょう。

あなたが幼い子供又は孫と友人の家に行き、庭にあった落花生を見つけたとしましょう。子供さん(お孫さん)が黄色い花を指して「これなーに」と聞いてきたので、あなたは「落花生よ」とやさしく答えました。友人と久しく会話してから、帰りにスーパーに立ち寄り、買い物をしました。売り場にあった落花生の煎り莢を指して、「これなーに」と子供さん(お孫さん)がまた聞いてきたので、あなたは「落花生よ」と答えました。すると「これも落花生っていうの。さっきと同じなの。わかんない。」と可愛い子供(孫)に言われてしまいました。あなたはあわてて「さっきのは落花生の花。これは落花生の莢。正しくは落花生の煎った莢。そしてこれは煎った実」と隣にあった煎り豆を指して言いました。そうです、落花生とは総称で、植物の器官や商品を正確に述べるには、花とか(煎った)莢とかその下に具体的な名詞を付けなくてはなりません。省略すると誤解が生じるのです。

このことはピーナッツや南京豆(ナンキンマメ)にも当てはまります。ピーナッツや南京豆は総称で、正確を期すために名詞を付けると、ピーナッツの花、南京豆の花、ピーナッツの(煎った)莢、南京豆の(煎った)莢、ピーナッツの莢から取り出して煎った実、南京豆の莢から取り出して煎った実 等々となります。しつっこいですね。

でも物事を正確に表現するには、しつこさがある程度必要かなと筆者は思っています。ということで、上述の回答の②は変な省略をしたために生じた、明らかに間違った言い方です。でも、それが一般に流布され、ネット上でも一部で堂々と説明されているのはちょっと困ったことですね。

ちなみに、南京豆は落花生のいにしえの呼称で、中国の南京から日本に導入されたため、南京豆と呼ばれるようになったとのことですが、現在は落花生を南京豆と呼ぶ人は少なく、死語になりつつあります。植物分類学でも昔は落花生をマメ科ナンキンマメ属としていましたが、現在はマメ科ラッカセイ属としています。

南京豆に限らず、唐人豆、地豆等、落花生の総称は、前の項目でも述べたように、いろいろあるよと皆さんにお教えいただけると有り難いですね。

正解 ①